

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 ハバクク書 3:4	讃 美 歌 499 みたまよ、くだりて
讃 美 歌 7 主のみいつとみさかえとを	献 金
祈 禱	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 エゼキエル書 37:1~6	主の祈り 564
ローマの信徒への手紙 5:5	頌 栄 543 主イエスのめぐみよ
讃 美 歌 467 おもえばむかしイエスキミ	祝 禱
説 教 『死、命、愛』	後 奏

「主の手がわたしの上に臨んだ。わたしは主の霊によって連れ出されある谷の真ん中に降ろされた。そこは骨でいっぱいであった(エゼキエル37:1)」。奇怪な情景。預言者やシャーマンに特有の幻なのだろうか。いや、むしろ普通に見ている現実こそが幻想で、主なる神は預言者に世の実相を見せた。骨は「死」を連想させる。「谷の上には非常に多くの骨があり、また見ると、それは甚だしく枯れていた(37:2)」。預言者はイスラエルの民の絶望を、累々たる「甚だしく枯れた骨」として見せられたのか。

エゼキエルは第一回バビロン捕囚(BC.597~)の中にいた祭司。預言者として召命を受けたのは「捕囚の第五年(1:2)/BC.592」。このあたりの時代は、全人類史的に見ても実に大きな転換期。哲学者 K. ヤスパースはこれを「枢軸の時代」と名づけた。ギリシアでは一連の哲学者が、インドでは仏陀やウパニシャッド哲学が、中国では孔子や諸子百家が、ペルシャではゾロアスターが、そしてイスラエルでは預言者が幾人も現れている。6 万年前頃に人類がアフリカから旅立ち、それぞれの地に定着するまでに万年単位の時間差があった。ところがこの時期、機を合わせたかように「人類の知」が生じた。

ヤスパースによればこの時代、人類は「世界の現実に対して自己の無力を自覚し、根本的な問いを發した」のだと。日本列島は弥生期、稲作労働で酷使され、縄文由来の創造性や明るさが抑圧されていたか。そんな所からイメージを捻げれば、「枯れた骨」のヴィジョンは捕囚されたイスラエルに留まらず、全人類的なぶっ太い「問い」なのではなかろうか。人間はそれ以降、そして今もなお「枯れた骨とその再生」という根源的な問いの中にいて、その都度答えを出しているような気がする。

主なる神は預言者に問う。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか(37:3)」。預言者は「主なる神よ、あなたのみがご存じです(37:3)」と答えた。そりゃまったくその通りで、人間の応答はそこで終わってしまうことが多い。枯れた骨という「死」は、もう人間が手出しできない領域だから。

エゼキエルは預言を命じられる。「枯れた骨よ、主の言葉を聞け。これらの骨に向かって、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る(37:4~5)」。神の霊が、人の子(人間 37:3)の預言によって吹き込まれる。すると「わたしは、お前たちの上に筋をおき、肉を付け、皮膚を覆い、霊を吹き込む。するとお前たちは生き返る。そして、お前たちはわたしが主であることを知るようになる(37:6)」。死から生への反転。人は死に捕らわれたままではない。

預言者は「霊によって連れ出され(37:1)」、累々たる骨を見(37:2)、そして吹き込まれる霊によって、枯れた骨が生き返る様を見る(37:5)。神の息たる聖霊に吹かれる私たちも、存在の深みに連れ出されて死を凝視する。そしてその死に「神の息」が吹き込まれて私自身となる。死にある間は枯れた骨で、それが誰かは判別できない。だが聖霊によって私たちは「生き返り(37:6)」、私自身になり、主を知る。

「希望はわたしたちを欺くことがない。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているから(ロマ5:5)」。聖霊による私たちの今と、未来の再生は、神の愛で実現する。全人類の「希望」は愛。私たちに吹き込まれる聖霊が、神の命と共にその希望の愛を与えてくれる。

死の反語は生 確かに言葉ではそうだろう だが生命は神の霊による 死とはまるで違う次元の事
死は人間の領域で神は死ぬことができない だからキリストとしてやって来た 神は死を経験した
来たる 11/2(日)礼拝直後に臨時教会総会を開きます。宗教法人化に関する議事で 30 分程度で終わるつもり。会員の方はご出席ください。9/17(水)1:00~3:00 教会カフェ(30 分、聖書のおはなし)。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。